水月倶楽部

舞姫と森鷗外

水月ホテル鷗外荘編

水月ホテル鷗外荘



当ホテル収蔵

水月ホテル鷗外荘
〒110-0008 東京都台東区池之端3丁目3-21（森鷗外居住の跡）
TEL.03-3822-4611　FAX.03-3823-4340
フリーダイヤル 0120-266266

2018.10/KD-10000



薫り立つ明治の浪漫。

「舞姫の碑」について



森鷗外文学発祥の地を記念し、当ホテルの庭に建立いたしました碑文は、鷗外自筆の毛筆原稿より、鷗外のご子息・故森類氏にご選定いただきました。建設にあたっては、鷗外学者・故長谷川泉氏によりご助力を賜りました。



明治文壇に刻まれた
森鷗外の偉大な足跡を訪ねて。

森鷗外は、尊王攘夷の風が吹き荒れる幕末動乱の時代に、津和野藩4万3千石の城下町で御典医の息子として生まれました。幼少期の鷗外は、神童と呼ばれるほど学業優秀で、12歳の時に第一大学区医学校予科に入学し、19歳8ヶ月という若さで東京大学医学部を卒業、医学士となりました。

陸軍軍医となった鷗外は、西洋医学を学ぶためドイツに留学します。ミュンヘンで出会ったドイツ人女性エリーゼ・ヴィゲルトとの恋愛が、後の作品『舞姫』の構想を生んだとされています。


武石弘三郎アトリエにて
（明治44年）

28歳となった鷗外は、西周氏の媒酌にて海軍中将男爵・赤松則良氏の長女・登志子と結婚をします。結婚後、鷗外は台東区上野花園町11番地の赤松家の持家、つまり当ホテル所有の鷗外荘を新居としました。明治23年（1890年）1月、29歳の鷗外は「国民之友」の新年付録に処女作『**舞姫**』を発表しました。

国費留学生となった主人公・太田豊太郎が帰朝する船の中で、踊り子エリスとの出会いや別れなど、ドイツでの出来事に想いを巡らせながら一人称形式で展開する物語『舞姫』は、主人公の自我や心の内の葛藤が実感的に描写され、西欧に端を発した浪漫主義文学の代表的な作品に位置づけられています。


写真左より森鷗外、幸田露伴、斎藤緑雨（当ホテル所蔵）

鷗外は、続いて明治23年（1890年）8月にミュンヘンでの滞在体験をもとにした『うたかたの記』を発表しました。そして、翌年1月には『文づかひ』を発表。この作品は、ライプチッヒでの軍事演習に参加した一コマが記述されています。

これらの作品は、鷗外のドイツ三部作と言われ、欧米をまねて近代化を進めていた時代に憧れをもって読まれることになり、鷗外は文壇に確固たる地位を築きました。

その後の鷗外は、軍医を務めるかたわら、旺盛な執筆活動を続け、『キタ・セクスアリス』『青年』『雁』『阿部一族』『高瀬舟』など、数々の名作を発表。明治の文豪として、その名を今に残しています。

森鷗外史

上京～留学～結婚

藩医だった父の希望もあり、鷗外は早くから医学の道を志し、ドイツ留学を強く希望します。また、幼い頃から近所でも評判の「本の虫」であった鷗外は、ドイツ留学を経て文学に対しても並々ならぬ才能を開花させます。



22～26歳頃、
ドイツ留学中の鷗外

◎明治5年（1872年）11歳
遠縁・西周の勧めで、ドイツ語を学ぶため、父と上京。進文学舎入学。
向島小梅村・亀井家下屋敷に住む。その後、西周邸に寄寓。

◎明治7年（1874年）13歳
第一大学区医学校予科（後の東京大学医学部）へ入学。
年齢が不足していたため、2歳年を水増しした。

◎明治14年（1881年）20歳
7月　東京大学医学部卒業。一族の勧めで、陸軍省・東京陸軍病院に勤務。
12月　陸軍々医副の任務に就き、東京陸軍病院課僚に命じられる。



東大医学部本館

◎明治15年（1882年）21歳
陸軍の任務に就き、「医政全書稿本」全12巻を編述。

◎明治17年（1884年）23歳
陸軍衛生制度調査及び、陸軍衛生学研究のためドイツ留学を命じられる。8月　横浜を出航。
10月　ドイツ・ベルリンに到着。ライプチッヒ大学のホフマン教授に師事する。

◎明治19年（1886年）25歳　ミュンヘンのペッテンコオフェル教授に師事する。

◎明治20年（1887年）26歳　ベルリンに移り、ベルリン大学コッホ教授に師事する。

◎明治21年（1888年）27歳
9月　日本に帰国、横浜帰着。陸軍軍医学校教官に補せられ、後、陸軍大学教官を兼任。
帰国の4日後にドイツ女性エリーゼが来日。
彼女は周囲の説得を受け、10月にドイツへ帰国。



ミュンヘンでの鷗外
後列左から2番目

◎明治22年（1889年）28歳
3月　西周の媒酌で、海軍中将・赤松則良の長女・登志子と結婚し、上野花園町に移る。
8月　「国民之友」に訳詩編『於母影』を発表。
10月　「しがらみ草紙」を創刊。



妻の登志子

◎明治23年（1890年）29歳
1月　『舞姫』を「国民之友」に発表。
8月　『うたかたの記』を「しがらみ草紙」に発表。
9月　長男・於菟誕生。まもなく、妻・登志子と離婚。
10月　本郷駒込千駄木町57に居住を移し、そこを「千朶山房」と名付ける。

※年齢は数え年

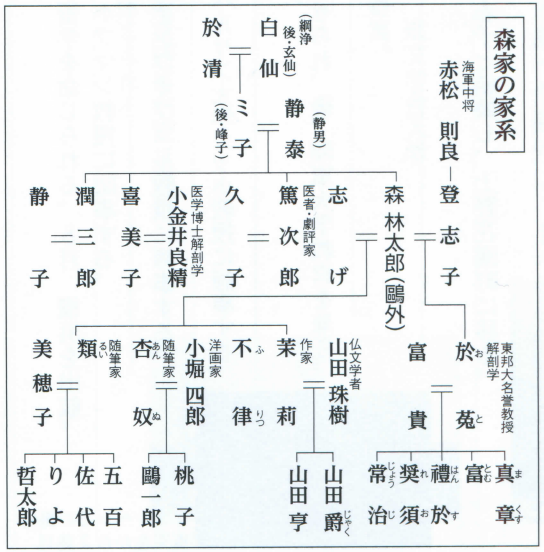
森家の系図

1862年（文久2年）、森鷗外こと本名・森林太郎は、島根県津和野に、父・静泰（後、静男）、母・ミ子（後、峰子）の長男として誕生。森家は、曾祖父・秀菴の代で一時断絶しかかり、そこへ佐佐田白仙（後、玄仙）が婿入りし、森家を継承。白仙と妻・於清との間に一人娘・ミ子が生まれ、婿入りした静泰との間に生まれた待望の男の子が、林太郎でした。


母・ミ子（峰子）


父・静泰（静男）


鷗外の生家（左端が勉強部屋）



森鷗外の面影が残る宿

女将　中村みさ子



私ども水月ホテル鷗外荘には、森鷗外が『舞姫』を執筆したお部屋「舞姫の間」がございます。当時をしのばせるものは建物ばかりではなく、舞姫の間から臨む庭のつくり、樹齢三百年の榧の木や樹齢二百年以上の黒金もちの木なども残されています。

森鷗外は、この地で『舞姫』のほか、『うたかたの記』『於母影』も発表されました。この地を森鷗外文学発祥の地として末長く後世に伝えるために、庭には『舞姫』の鷗外自筆の原稿を碑文にした記念碑が建てられました。

私どもにお越しいただきますと、このように森鷗外の面影と明治の浪漫をホテル内のいたる所で感じていただけると存じます。



［舞姫の間］
鷗外旧邸は、28歳で結婚した森鷗外が、新婚当時を過ごした家です。氏の作品にちなみ、日本庭園に面した和室は「舞姫の間」と名付けられました。現在は、お食事処・ご宴会場、あるいはコンサート会場として、広く皆様にご利用いただいております。

◆事前にご予約ください。
昼の部/11:00〜・14:00〜
夜の部/17:00〜



鷗外が暮らした「鷗外荘」は、現代に蘇る明治の浪漫をご満喫いただけます。

日常を忘れて優雅な時間を楽しみたい時に、ご家族やお友達との和やかな集いに、明治の浪漫漂う特別室を貸切にてご利用いただけます。

←「蔵」（ミュージアムホール）
軸組構法で建てられた土蔵造りのお部屋です。
●室料／6名様迄
2時間18,000円（税別）

↓「於母影」（ファミリアダイニング）
文学サロンの趣を今に伝える優雅なお部屋です。
●室料／12名様迄
2時間25,000円（税別）







[箏曲]上遠野 文音



[ヴァイオリン]菅野 朝子



[クラリネット]守屋 和佳子



[ギター]前田 司

優雅な音色に包まれて、
極上のひとときを。
『森鷗外旧邸コンサート』



[生田流箏曲]日高 さとみ

明治の浪漫漂う森鷗外旧邸には、プロの演奏家による優雅な音色が似合います。当ホテルでは、貸切コンサートなどを2名様から承っております。皆様のご要望に随時お応えしておりますので、お気軽にご相談ください。

心地よい音色につつまれ、なごみの時間を…。

文豪「森鷗外」貸切

旧邸 独奏コンサート

音楽家出演（税別）

演奏者／1名35,000円～

洋楽器はヴァイオリン・フルート・オーボエ・サックス・ギターを、和楽器は箏を手配いたします。ソロ演奏からアンサンブルまで、コンサートをお楽しみいただけます。

※都内の出張は10,000円（税別）でお受けしております。
都内以外の場合はお問い合わせください。

和食 懐石料理のおすすめ

ご予算に応じた献立を承ります。

◆蓬莱　16,000円（税・サービス料別）
◆福寿　13,000円（税・サービス料別）
◆伯楽　11,000円（税・サービス料別）

鷗外荘 室料［ご会食］

◆舞姫の間　2時間 36,000円（税別）
◆於母影（おもかげ）　2時間 25,000円（税別）
◆蔵　2時間 18,000円（税別）